

◆4番（山本みちよ君）

夏祭りなどイベントにおけるごみ出しの考え方と粗大ごみの定額制についてです。

ことしも各地域において夏祭りなどのイベントが盛大に行われました。そして、楽しかった後に残るものは大量のごみです。私も、地元の自治会役員として祭りの翌日は朝6時に集合、ごみの最終分別をするのですが、明らかに汚れがついてしまい、本来であればリサイクルできるものまでだめになっていることがあります。一方、あるお祭りの会場では、ごみ箱のわけに担当者がついて注意を促し、きれいに分別している地域もありました。また、ことしの楽市では、ごみ対策課の職員が総出ですべて手洗いでリサイクルに回したとのお話を聞き、率先垂範される皆さんのごみ減量への意気込みを強く感じました。祭りの規模などさまざま条件の違いはあることではと思いますが、特にごみの分別は最初に出す段階が肝心です。現状のような各団体によって異なったごみ処理ではなく、立川市としてイベントにおけるごみ処理の仕方についてきちんとした考え方、方針を示すべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

そして次に、粗大ごみの定額制についてです。

現在、立川市では1,000円の定額制で10ポイントまで回収となっていますが、10ポイントちょうどにすることはなかなか難しいものです。少し足りないと損をしたような、また我慢して何点か集めると11ポイントになったなどといったお声が特に主婦の皆さんから届いております。

そこで、お尋ねいたします。立川市として定額制ではなく、ほかの市で導入されているような使い勝手のいい200円券、300円券などのチケット制への移行は検討できないでしょうか。市民の側に立った利用しやすい制度への再考をお願いいたします。

◎ごみ減量化担当部長（原田晴司君）

夏祭りなどのイベントのごみの出し方等についてでございますが、夏祭り等のイベントから発生するごみにつきましては、家庭ごみと同様の分別と自己搬入

を条件に手数料を減免して受け入れております。分別の徹底に積極的に取り組んでいただいている団体がある一方、分別が不十分なものや汚れたものを持ち込む団体もあり、リサイクルできないものはやむなく焼却処理しているということが現状でございます。イベントそのものは、ごみ減量とリサイクルの推進を市民の皆様にご認識していただくよい機会と考えておりますので、イベントに先立って分別の説明や実践的に取り組んでいる団体の事例を紹介するなど、情報提供には積極的に取り組んでまいりたいと、このように考えております。

それから、次の質問の粗大ごみの定額制についてでございますが、収集品目の多少にかかわらず1回当たりの収集コストに大きな差がないことから、合計点数が10点に満たない場合でも、1回の収集につき一律1,000円の御負担をいただいております。こういう中で、利用者の方からは、議員からの御指摘のとおり、もうちょっと処理券の細分化というんですか、100円券だとか500円券だとか、そういうことの新設の御要望をいただいております。市としては、今後、処理券の販売方法も含めて検討してまいりたいと、このように考えております。